

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

#### 前回からの主要変更点

|       | 前回 (令和2年12月)   | 今回 (令和3年3月)  |   |
|-------|--|--|---|
| 景況判断  | 新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下の感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている | 新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる | ↓ |
| 鉱工業生産 | 下げ止まりつつある  | 持ち直している  | ↑ |
| 観光    | 一部に持ち直しの動きがみられる。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れが懸念されている                                    | このところ弱い動きとなっている  | ↓ |
| 個人消費  | 持ち直している。なお、ヒアリングによれば、足下における感染者数増加による下振れ懸念が一部の業種で強まっている                                     | このところ弱含んでいる  | ↓ |

#### 1. 鉱工業生産等の動向

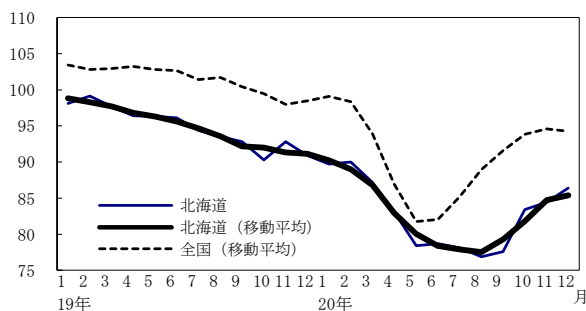
(1) 第一次産業は生乳生産は前年を上回り、主な水産物の生産額は前年を下回っている。

10-12月期には、生乳生産は総量では1,025,605tと前年比1.7%増となった。主な水産物<sup>1</sup>の生産額(主要9港)は、するめいか等が減少したため、前年比25.4%減となった。

(2) 鉱工業生産は持ち直している。

10-12月期の鉱工業生産は、鉄鋼は鋼半製品が増加したこと、化学・石油石炭製品が増加したこと等により、前期比9.3%増となった。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。  
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

|           | 付加価値ウェイト | 生産    |         |      |      |      |
|-----------|----------|-------|---------|------|------|------|
|           |          | 7-9月期 | 10-12月期 | 10月  | 11月  | 12月  |
| 食品        | 25.9     | ▲2.0  | 1.2     | 2.7  | 3.2  | 0.7  |
| パルプ・紙     | 13.1     | ▲4.3  | 5.9     | ▲4.2 | ▲4.7 | 11.1 |
| 電気機械      | 9.1      | 7.5   | 19.7    | 5.5  | 5.1  | ▲1.0 |
| 鉄鋼        | 7.9      | ▲42.7 | 53.8    | 16.4 | 14.6 | 76.9 |
| 化学・石油石炭製品 | 7.6      | ▲23.1 | 34.5    | 38.7 | ▲2.9 | ▲7.1 |
| 鉱工業       | 100.0    | ▲3.2  | 9.3     | 7.5  | 1.2  | 2.4  |

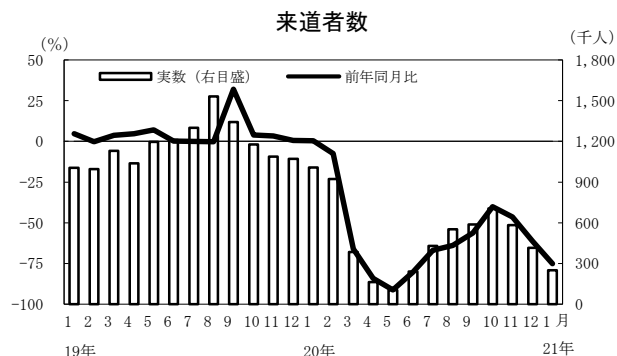
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 10-12月期、12月は速報値。

<sup>1</sup>主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光はこのところ弱い動きとなっている。

10-12月期の来道者数は、航空機の利用者減などがあり、前年同期比49.0%減となった。月別では、10月に前年同月比40.1%減、11月に同46.4%減の後、12月は同61.3%減となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ弱含んでいる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比1.4%増となった。月別にみると、10月は前月比0.7%増、11月は同0.4%減、12月は同1.0%減となった。

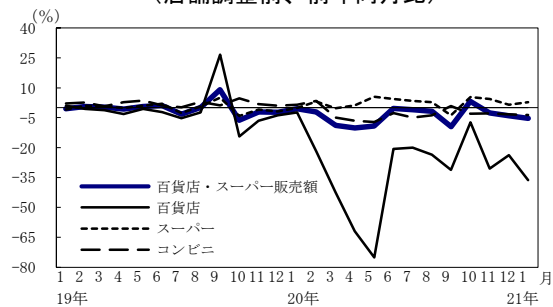
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比1.6%減となった。月別にみると、10月は前年同月比3.1%増、11月は同2.6%減、12月は同4.0%減となった。

百貨店は、10-12月期は前年同期比21.6%減となった。

スーパーは、10-12月期は同3.5%増となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



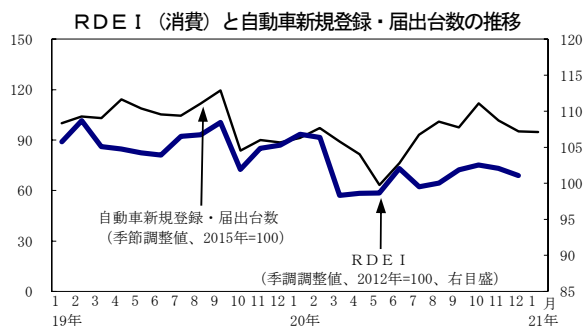
|              | 2020年<br>10-12月 | 2020年<br>10月 | 2020年<br>11月 | 2020年<br>12月 | 2021年<br>1月 |
|--------------|-----------------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| RDEI (消費*1)  | 1.4             | 0.7          | ▲0.4         | ▲1.0         | —           |
| 百貨店・スーパー(*2) | ▲1.6            | 3.1          | ▲2.6         | ▲4.0         | ▲5.4        |
| 百貨店(*2)      | ▲21.6           | ▲7.4         | ▲30.6        | ▲23.9        | ▲36.3       |
| スーパー(*2)     | 3.5             | 5.3          | 4.4          | 1.4          | 2.8         |
| コンビニ(*2)     | ▲3.1            | ▲3.1         | ▲2.9         | ▲3.3         | ▲3.6        |
| 乗用車(*3)      | 17.8            | 33.2         | 13.3         | 7.5          | 1.9         |
| (季節調整値) (*3) | 5.9             | 14.8         | ▲9.2         | ▲6.3         | ▲0.4        |

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2021年1月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



### 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期を上回っている。

